

法人経営で地域の農業を未来へつなげる。

株式会社Front line(旭川市)



【組織等の概要】

- 代表者: 中谷 仁(写真中央)
- 設立年月: 令和4年2月
- 農業従事者数: 役員7名、通年雇用2名、季節雇用5名
- 経営面積: 水稲150ha、畑作40ha
- ホームページ: <https://frontline.video-c.jp/>

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 旭川市東鷹栖地区では、農業者の高齢化や離農、遊休農地の増加などの課題が山積していた。
- ◆ 親世代は夫婦で営農しているが、今の30代・40代は妻が働きに出ているところも多く、親世代が引退したときに家族経営のままでは現在の経営面積だけでなく、地域の農地を守っていくことも難しくなると感じ、令和4年2月に地域の30代から40代の農業経営者5名で農業生産法人「株式会社Front line」を立ち上げた。
- ◆ 米は8品種を作付けしており、ななつぼしとゆめぴりかが大半を占めている。特別栽培にも取り組んでいるほか、ゆめぴりかの一部で有機JAS認証を取得している。
- ◆ 農福連携にも取り組んでおり、旭川市の就労継続支援B型事業所に水稲の種まきと田植えの作業の一部を委託している。
- ◆ 輸出商社を通じてアメリカやヨーロッパ、香港などに米を間接輸出しており、今年は30トンから40トン輸出する計画を立てている。

【今後の展望】

- 作業能力に余力があるので、地域の離農者の農地等を引き受け面積を広げたい。また、特別栽培に取り組む面積、有機JAS認証の取得面積を増やし、付加価値を向上させたい。
- 現在はプレハブに精米機を1台設置した簡易的な設備のため、精米施設を整備したい。
- 福祉事業所から要望があるため、農福連携で委託する作業を増やしたい。
- 米について、間接輸出の取引先を増やし、輸出の量を増やしたい。
- みえるらべるを取得し、主にふるさと納税の返礼品に添付してPRしたい。



苗箱を並べる作業



苗を田んぼに運搬する作業



田植え作業



手分けして作業します

【取組の成果】

- 若手農業者が一法人に集まることで、働き手が増え効率的に作業できるようになった。また、法人化することで会社の信用も上がり、従業員を雇いやすくなった。
- それぞれの農家の顧客が集約され、広告等を使わなくとも効率的に直販の販路を確保できた。